

尚々御同性瀬兵殿

書状も不進候、御心得  
可被下候、御なつかしく候  
互ニ年ノ上ニ候まゝ  
御目ニかゝり申ましき  
かと一入御なつかしく候  
以上

八月五日之貴札拝見、先以

貴様御父子弥御堅固御勤仕候旨  
珍重存候、此表別条無御座  
四郎五郎一家無為被罷在候、次  
拙者義茂息災ニ勤候間可御心易候  
御紙面則四郎五郎披見被申候

一 内々御無心申候物共竹嶋ニ而御  
調被下、大坂より橋屋清二郎

相届御注文之通無相違相達

則別紙ニ請取手形進之候

一 竹嶋松嶋両所江御船被遣、無事

帰朝、日出珍重奉存候、此方ニ而

茂悦被申候

一 此方より望之注文之内

梅檀板壹枚乗物之棒

拙者誂之桐木船中ニ而

捨り申由残念之御事候

然共御船無何事目出度

奉存候

一 大久保和泉守方江之御状相

届申候、此便俄故御返事

跡より可進之候

一 村川市兵衛殿御下首尾能

被致御目見、早速御帰候

定而様子御聞可被成と存候

其節茂御報ニ申入候、相届

可申与存候、猶期後音時候

恐惶謹言

龜山勝左衛門

十一月廿二日

□□  
(花押)

大屋九右衛門様

御報